

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成31年3月13日
【四半期会計期間】	第76期第1四半期（自平成30年11月1日至平成31年1月31日）
【会社名】	株式会社ハイレックスコーポレーション
【英訳名】	HI-LEX CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 寺浦 實
【本店の所在の場所】	兵庫県宝塚市栄町一丁目12番28号
【電話番号】	(0797) 85 - 2500 (代表)
【事務連絡者氏名】	経理グループ担当執行役員 芦田 安功
【最寄りの連絡場所】	兵庫県宝塚市栄町一丁目12番28号
【電話番号】	(0797) 85 - 2500 (代表)
【事務連絡者氏名】	経理グループ担当執行役員 芦田 安功
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第75期 第1四半期 連結累計期間	第76期 第1四半期 連結累計期間	第75期
会計期間	自平成29年 11月1日 至平成30年 1月31日	自平成30年 11月1日 至平成31年 1月31日	自平成29年 11月1日 至平成30年 10月31日
売上高 (百万円)	64,569	64,624	251,250
経常利益 (百万円)	3,796	2,396	11,842
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	2,499	1,377	5,524
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	8,357	534	6,570
純資産額 (百万円)	181,254	177,531	178,921
総資産額 (百万円)	256,372	243,682	250,090
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	65.77	36.22	145.32
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	65.63	36.15	145.04
自己資本比率 (%)	65.1	67.0	65.8

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、前第1四半期連結累計期間及び前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。各セグメントに係る主要な関係会社の異動は以下のとおりであります。

<中国>

当第1四半期連結会計期間より、従来持分法非適用非連結子会社であった海徳世汽車部件(瀋陽)有限公司は、重要性が増したため連結の範囲に含めております。

<アジア>

当第1四半期連結会計期間において、インド共和国にDAEDONG DOOR INDIA PRIVATE LIMITEDを新規設立し、連結の範囲に含めております。

<欧州>

当第1四半期連結会計期間より、従来持分法非適用非連結子会社であったHI-LEX SERBIA D.O.O.は、重要性が増したため連結の範囲に含めております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、全体としては緩やかな景気回復が続く一方で、米国及び中国間の通商問題の高まりにより、先行きが不透明な状況で推移いたしました。

米国では景気は着実に回復が続いている一方、中国では通商問題の動向及び影響、過剰債務問題への対応、金融資本市場の変動の影響等によって景気が下振れするリスクがあるものの、当面は緩やかな減速が続くことが見込まれます。日本経済においては、通商問題の動向が世界経済に与える影響や、中国経済の先行きなど海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要があるものの、各種政策効果もあり、緩やかな回復が続くことが期待されます。

自動車業界におきましては、日本国内の自動車生産台数は前年同期比6.8%増の256万台となりました。海外では、米国の自動車生産台数は前年同期比4.6%増の281万台、中国の自動車生産台数は前年同期比16.2%減の731万台となりました。

当社グループの当第1四半期連結累計期間の経営成績は、主に北米並びにアジアで販売が堅調に推移した一方で、中国を中心に日本、欧州で販売が減少したことにより、売上高は646億2千4百万円（前年同期比5千4百万円増、0.1%増）となりました。営業利益については、主に、中国における自動車市場低迷による販売減少の影響、北米において2019年に立ち上がる受注対応のため、前年から実施している建屋拡張を含む大規模な生産能力増強に係る減価償却費、人件費並びにその他製造経費の増加の影響、アジアにおいては、主に前年より本格稼働となったインド子会社のグジャラート新工場での減価償却費、人件費並びにその他製造経費の増加に加え、同国での材料コストの市況による増加の影響、また欧州では、2019年6月の本格稼働に向けて生産準備を進めているチェコ新工場に係る操業前費用が増加した影響等により前年同期比で減少し、20億1千4百万円（前年同期比13億4千8百万円減、40.1%減）となりました。経常利益は、主に受取補償金1億7千4百万円、受取利息1億2千6百万円並びに持分法による投資利益1億5千4百万円による収益を計上した一方で、為替差損3億5千7百万円が発生した影響等により、23億9千6百万円（前年同期比14億円減、36.9%減）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、13億7千7百万円（前年同期比11億2千2百万円減、44.9%減）となりました。

当第1四半期末の総資産は、前連結会計年度末に比べ64億8百万円減少し、2,436億8千2百万円となりました。主として、受取手形及び売掛金が33億2千6百万円、現金及び預金が21億7千万円、建設仮勘定が8億7千7百万円減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末と比べ50億1千8百万円減少し、661億5千1百万円となりました。主として、支払手形及び買掛金が29億3千6百万円、賞与引当金が6億6千5百万円、短期借入金が3億3千2百万円減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末と比べ13億9千万円減少し、1,775億3千1百万円となりました。主として、為替換算調整勘定が19億8千6百万円減少したことによるものであります。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

日本

日本におきましては、顧客への販売が伸び悩んだ影響により、売上高は156億円（前年同期比4億4千5百万円減、2.8%減）となりました。営業利益は、顧客への販売が伸び悩んだ影響に伴い、15億6千7百万円（前年同期比2億2千1百万円減、12.4%減）となりました。

北米

北米におきましては、顧客への販売が堅調に推移したことと、韓国系自動車メーカー向けの販売が回復したことにより、売上高は232億8千2百万円（前年同期比26億1千5百万円増、12.7%増）となりました。営業利益は、原価低減と生産性改善に取り組んだものの、前述のとおり、受注の新規立ち上げによる費用増加の影響もあり、7億7千1百万円（前年同期比2億9千4百万円減、27.6%減）となりました。

中国

中国におきましては、主に米国との通商問題の影響で国内販売が低迷したことにより、売上高は103億9千9百万円（前年同期比28億9千6百万円減、21.8%減）となりました。営業利益は、国内販売低迷に伴う操業度の低下による影響で、5千4百万円（前年同期比9億2千4百万円減、94.4%減）となりました。

アジア

アジアにおきましては、主に韓国系自動車メーカー向けの販売が回復したことにより、売上高は160億2百万円（前年同期比20億6千2百万円増、14.8%増）となりました。営業利益については、インドでの費用増加があったものの、その他子会社での原価低減活動もあり、8億7千7百万円（前年同期比4億6千1百万円増、111.1%増）となりました。

欧州

欧州におきましては、主にイタリア子会社の販売が伸び悩んだ影響により、売上高は48億8千8百万円（前年同期比7億4千6百万円減、13.2%減）となりました。営業利益は、主にイタリア子会社の販売が伸び悩んだ影響及び、チェコ新会社での開業費用の増加により、2億8千4百万円の営業損失（前年同期は2億9千1百万円の営業損失）となりました。

南米

南米におきましては、売上高は、9千4百万円（同4千5百万円増、92.7%増）となりました。利益面では、原価低減と生産性改善に取り組んだものの、ブラジル自動車市場の低迷による生産の伸び悩みによる影響もあり、3億6百万円の営業損失（前年同期は9千9百万円の営業損失）となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりであります。

基本方針の内容

当社は上場会社である以上、当社の株式が市場で自由に取引されるべきことは当然であり、当社取締役会の賛同を得ずに行われる大規模買付等（特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、または結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為（市場取引、公開買付け等の具体的な買付方法の如何を問いません。）のうち、当社の取締役会の同意を得ていないものをいいます。）に応じるか否かの判断も、最終的には当社株主の皆様の判断に委ねられるべきものと考えております。

しかしながら、会社の支配権の移転を伴う大規模買付等の中には、当社の企業価値・株主共同の利益に反するものが幾つか存在しており、これらの大規模買付等が行われることを未然に防止できなければ、当社の強みである製造技術を支える優秀な従業員の流出を招き、お客様・仕入先様・社会からの強固な信頼を失い、当社における企業価値及び株主共同の利益の確保・向上に向けた取り組みの遂行に大きな影響を与えかねません。

そこで、当社は、大規模買付等が一定の合理的なルールに従って進められることが当社株主共同の利益及び当社の企業価値の確保・向上に資すると考え、平成28年12月12日開催の当社取締役会において、「当社株式の大規模買付等に関する対応方針（買収防衛策）の継続について」（以下「本プラン」といいます。）を決議しました。本プランは、平成29年1月28日開催の当社第73期定時株主総会において、株主の皆様のご承認を得ております。

不適切な支配の防止のための取り組み

本プランは、当社株式等に対する大規模買付等が行われる場合の手続を明確にし、株主の皆様が適切な判断をするために必要かつ十分な情報と時間を確保するとともに、当社取締役会が買付者等との交渉を行う機会を確保することにより、当社の企業価値及び株主共同の利益を確保し、向上させることを目的としています。

すなわち、本プランは、大規模買付等を実施しようとする買付者等には、必要な情報を事前に当社取締役会に提出して頂き、当社取締役会がその大規模買付等を評価・交渉・代替案を提出する期間を設けることとする大規模買付ルールを定めるものです。

当社取締役会は、独立役員として証券取引所に届出をしている社外取締役及び社外監査役で構成する独立委員会を設置し、独立委員会は、買付者等や当社取締役会から情報を受領した後、必要に応じて外部専門家等の助言を得ながら、大規模買付等の内容の評価・検討、当社取締役会の提示した代替案の検討等を行います。

買付者等が本プランの手続を遵守しない場合や、当社の企業価値・株主の共同の利益を著しく損なうと認められる場合には、当社取締役会は、独立委員会に諮問した上で、独立委員会の判断を最大限尊重して対抗措置の発動、不発動を決定します。

なお、本プランの詳細は、インターネット上の当社ウェブサイト（アドレス<http://www.hi-lex.co.jp/>）に「当社株式の大規模買付等に関する対応方針（買収防衛策）」として掲載されております。

不適切な支配の防止のための取り組みについての取締役会の判断

当社取締役会は、以下の理由から、本プランが基本方針に沿い、当社の企業価値・株主共同の利益を損なうものではなく、かつ、当社経営陣の地位の維持を目的とするものではないと判断しています。

ア．株主意思の反映

本プランは、平成29年1月28日開催の当社第73期定時株主総会において株主の皆様のご承認を得ており、その有効期間は当社第73期定時株主総会終結のときから平成32年1月頃に開催予定の当社第76期定時株主総会の終結のときまでの3年間とされており、株主の皆様の意思の尊重に最大限の配慮を行っております。また、大規模買付等を受け入れるか否かは最終的には当社株主の皆様の判断に委ねられるべきという方針で貫かれており、対抗措置を発動するのは、買付者等が本プランの手続を遵守しない場合や当社の企業価値・株主の共同の利益を著しく損なうと認められる場合に限定されております。

イ．独立性の高い社外者の判断と情報開示

独立役員として届出をしている社外取締役及び社外監査役により独立委員会を構成することにより、当社の業務を執行する経営陣の恣意的判断を排し、その客観性、合理性を担保すると同時に、独立委員会は当社の実情を把握し当社の企業価値を構成する要素を十分に把握した上で、当該大規模買付等が当社の企業価値・株主共同の利益に及ぼす影響を適切に判断できると考えております。

さらに、当社取締役会は、買付者等から大規模買付等の提案がなされた事実とその概要及び本必要情報の概要その他の情報のうち株主の皆様のご判断に必要であると認められる情報がある場合には、適切と判断する時点で開示いたします。

ウ．本プラン発動のための合理的な客観的要件の設定

本プランは、あらかじめ定められた合理的な客観的要件が充足されなければ発動の勧告がなされないように設定されています。これにより、当社取締役会による恣意的な発動を防止します。

エ．第三者専門家の意見の取得

独立委員会は、当社の費用で、独立した第三者（ファイナンシャル・アドバイザー、公認会計士、弁護士、コンサルタントその他の専門家を含みます。）の助言を得ることができます。これにより、独立委員会による判断の公正さ、客観性がより強く担保されます。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、10億4千4百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	80,000,000
計	80,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成31年1月31日)	提出日現在発行数(株) (平成31年3月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	38,216,759	38,216,759	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数は100株 であります。
計	38,216,759	38,216,759	-	-

(注) 「提出日現在発行数」欄には、平成31年3月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は含まれておりません。

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成30年11月1日～ 平成31年1月31日	-	38,216	-	5,657	-	7,105

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成30年10月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成31年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 168,800	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 38,018,800	380,188	-
単元未満株式	普通株式 29,159	-	-
発行済株式総数	38,216,759	-	-
総株主の議決権	-	380,188	-

(注) 1. 「完全議決権株式(その他)」には、「役員向け株式交付信託」の信託財産として、三井住友信託銀行株式会社(信託E口)が所有している当社株式29,306株が含まれております。なお、当該株式は、四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2. 「完全議決権株式(その他)」には、証券保管振替機構名義の名義書換失念株式が1,400株含まれております。また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の名義書換失念株式に係る議決権の数14個が含まれております。

【自己株式等】

平成31年1月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ハイレックスコーポレーション	兵庫県宝塚市栄町一丁目12-28	168,800	-	168,800	0.44
計	-	168,800	-	168,800	0.44

(注) 上記のほか、「役員向け株式交付信託」の信託財産として、三井住友信託銀行株式会社(信託E口)が所有している当社株式29,306株を、四半期連結財務諸表において自己株式として表示しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成30年11月1日から平成31年1月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年11月1日から平成31年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成31年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	50,964	48,793
受取手形及び売掛金	42,598	39,271
電子記録債権	1,024	1,062
有価証券	3,868	3,837
商品及び製品	9,629	9,466
仕掛品	2,684	2,684
原材料及び貯蔵品	12,271	12,739
その他	4,986	5,104
貸倒引当金	404	403
流動資産合計	127,625	122,557
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	22,635	23,095
機械装置及び運搬具(純額)	18,079	18,287
工具、器具及び備品(純額)	2,045	2,265
土地	8,141	8,162
建設仮勘定	9,005	8,127
有形固定資産合計	59,907	59,938
無形固定資産		
のれん	3,654	3,060
その他	5,122	4,851
無形固定資産合計	8,777	7,911
投資その他の資産		
投資有価証券	47,819	47,761
長期貸付金	350	341
退職給付に係る資産	437	442
繰延税金資産	1,470	1,274
その他	6,227	5,908
貸倒引当金	2,537	2,459
投資その他の資産合計	53,769	53,268
固定資産合計	122,454	121,118
繰延資産	10	6
資産合計	250,090	243,682

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成30年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成31年1月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	31,092	28,156
短期借入金	4,552	4,220
1年内返済予定の長期借入金	1,174	1,191
未払法人税等	740	691
賞与引当金	2,001	1,335
役員賞与引当金	54	12
製品保証引当金	3,112	2,955
その他	11,541	10,907
流動負債合計	54,271	49,471
固定負債		
長期借入金	3,132	2,928
繰延税金負債	10,522	10,672
退職給付に係る負債	2,123	2,052
その他	1,119	1,026
固定負債合計	16,898	16,679
負債合計	71,169	66,151
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,657	5,657
資本剰余金	7,332	7,332
利益剰余金	130,883	131,474
自己株式	336	336
株主資本合計	143,536	144,127
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	24,574	24,597
為替換算調整勘定	3,179	5,166
退職給付に係る調整累計額	427	402
その他の包括利益累計額合計	20,967	19,027
新株予約権	117	117
非支配株主持分	14,299	14,257
純資産合計	178,921	177,531
負債純資産合計	250,090	243,682

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年11月1日 至平成30年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年11月1日 至平成31年1月31日)
売上高	64,569	64,624
売上原価	54,863	56,193
売上総利益	9,706	8,430
販売費及び一般管理費	6,343	6,416
営業利益	3,362	2,014
営業外収益		
受取利息	134	126
受取配当金	143	80
持分法による投資利益	109	154
受取補償金	-	174
電力販売収益	11	15
その他	226	367
営業外収益合計	625	918
営業外費用		
支払利息	58	81
為替差損	67	357
電力販売費用	11	50
その他	54	47
営業外費用合計	191	536
経常利益	3,796	2,396
特別利益		
固定資産売却益	51	57
訴訟損失引当金戻入額	126	-
特別利益合計	177	57
特別損失		
固定資産売却損	10	2
固定資産除却損	12	5
特別損失合計	22	7
税金等調整前四半期純利益	3,951	2,446
法人税、住民税及び事業税	888	551
法人税等調整額	262	258
法人税等合計	1,150	809
四半期純利益	2,801	1,636
非支配株主に帰属する四半期純利益	301	259
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,499	1,377

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年11月1日 至平成30年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年11月1日 至平成31年1月31日)
四半期純利益	2,801	1,636
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	3,852	22
為替換算調整勘定	1,553	2,129
退職給付に係る調整額	3	30
持分法適用会社に対する持分相当額	153	94
その他の包括利益合計	5,555	2,170
四半期包括利益	8,357	534
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,784	562
非支配株主に係る四半期包括利益	572	27

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

従来持分法非適用非連結子会社であったHI-LEX SERBIA D.O.O.及び海德世汽車部件(瀋陽)有限公司は、重要性が増したため当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。また、同じく当第1四半期連結会計期間より、DAEDONG DOOR INDIA PRIVATE LIMITEDを新規設立し、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(IFRS第15号 顧客との契約から生じる収益の適用)

当第1四半期連結会計期間より、米国基準を採用する北米子会社を除く在外連結子会社において、IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」を適用しております。

当該会計基準の適用が四半期連結財務諸表に及ぼす影響は軽微であります。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、一部の連結子会社の前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が前連結会計年度末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成30年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成31年1月31日)
受取手形	177百万円	- 百万円
支払手形	586百万円	- 百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年11月1日 至平成30年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年11月1日 至平成31年1月31日)
減価償却費	1,751百万円	1,842百万円
のれんの償却額	134百万円	105百万円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成29年11月1日 至平成30年1月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成30年1月27日 定時株主総会	普通株式	1,008	26.5	平成29年10月31日	平成30年1月29日	利益剰余金

(注)平成30年1月27日定時株主総会決議の配当金の総額には、三井住友信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金0百万円が含まれております。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年11月1日 至平成31年1月31日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成31年1月26日 定時株主総会	普通株式	1,008	26.5	平成30年10月31日	平成31年1月28日	利益剰余金

(注)平成31年1月26日定時株主総会決議の配当金の総額には、三井住友信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式に対する配当金0百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成29年11月1日 至平成30年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	北米	中国	アジア	欧州	南米	合計
売上高							
外部顧客への売上高	14,285	20,580	11,879	12,192	5,582	49	64,569
セグメント間の内部売上高又は 振替高	1,759	87	1,415	1,747	53	-	5,063
計	16,045	20,667	13,295	13,939	5,635	49	69,632
セグメント利益又は損失()	1,788	1,066	978	415	291	99	3,857

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	3,857
セグメント間取引消去	380
全社費用(注)	875
四半期連結損益計算書の営業利益	3,362

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用等であります。

当第1四半期連結累計期間(自平成30年11月1日 至平成31年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	北米	中国	アジア	欧州	南米	合計
売上高							
外部顧客への売上高	13,584	23,217	8,879	14,119	4,728	94	64,624
セグメント間の内部売上高又は振替高	2,015	65	1,520	1,882	159	-	5,644
計	15,600	23,282	10,399	16,002	4,888	94	70,268
セグメント利益又は損失()	1,567	771	54	877	284	306	2,680

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,680
セグメント間取引消去	199
全社費用(注)	865
四半期連結損益計算書の営業利益	2,014

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用等であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「中国」及び「欧州」セグメントにおいて、従来持分法非適用非連結子会社であった海徳世汽車部件(瀋陽)有限公司及びHI-LEX SERBIA D.O.O.の重要性が増したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めております。当該事象に伴い報告セグメントに含まれない全社資産において、のれんの金額が338百万円減少しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年11月1日 至平成30年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年11月1日 至平成31年1月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益	65円77銭	36円22銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	2,499	1,377
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	2,499	1,377
普通株式の期中平均株式数(千株)	38,013	38,018
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	65円63銭	36円15銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(百万円)	-	-
普通株式増加数(千株)	78	73
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	-	-

(注) 「役員向け株式交付信託」が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益」及び「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第1四半期連結累計期間30千株、当第1四半期連結累計期間29千株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成31年 3月12日

株式会社ハイレックスコーポレーション

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 廣田 昌己 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 立石 政人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ハイレックスコーポレーションの平成30年11月1日から平成31年10月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成30年11月1日から平成31年1月31日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成30年11月1日から平成31年1月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ハイレックスコーポレーション及び連結子会社の平成31年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。